

# スロ～なニュースレター



## 協会活動 ● いろいろ報告

### 天習+学【環境「緑育」活動】

## ドングリプロジェクト(第8弾)

10月26日(土)、27号台風が過ぎ去り、雨が上がったが非常に強い吹き返しの風が吹きすさぶ中で、ドングリプロジェクト(第8弾)の開催となりました。今回は、松阪農業公園ベルファーム内にあるドングリの木を見つけ、それらの名を書いたラベル(木札)を取り付けました。

公園内にはコナラ、クヌギ、ナラガシワ、クリ、マテバシイ、アラカシ、スダジイ、ウバメガシの8種

がありました。通路に面した24本のドングリ樹木を選び、それぞれに木札を掲げました。その後、一昨年前にシタケの菌打ちしたコナラのほど木の観察をしました。シタケ(キノコ)がたくさん発生しており、参加者(子供4人を含む)はキノコ狩りも楽しむことができました。最後に、木札を掲げながら拾ってきたドングリをポット(鉢)に播種しました。



10月26日 木の名札つけ



3月16日 原木(コナラの木)にシタケ菌を植菌(菌打ち)

## ドングリプロジェクト(第9弾)

平成21年秋から始めた「ドングリプロジェクト」は、5年目を迎えています。3月16日(日)には、ドングリプロジェクト(第9弾)として、シタケの菌打ち等を行いました。このイベントに参加してくれた人は、松阪子ども連合会の児童たち(16名)と引率の方(6名)でした。

シタケの原木として利用されている「コナラ」や「クヌギ」の木は、ドングリの木として代表的な樹木です。今回は、約1mに玉切りしてあったコナラの木を利用し、約50本ほどに種駒とよばれるシタケの種菌を植菌しました。また、ベルファーム内のシタケのホダ場を整備して、植菌した原木(ホダ木)をホダ場に仮伏せしました。

1昨年に植菌した原木(ホダ木)も整備したホダ場に伏せ替えしました。

最後に、ベルファームの工房にもどり、1昨年に菌打ちした原木に生えているシタケを観察するとともに、原木栽培シタケを試食することにしました。子供たちは慣れない手つきでシタケを調理しました。その方法は、シタケをバターで炒めた後、塩とコショウで味付けをするという手順でした。

今回のプロジェクトでは、ドングリの木は環境改善や環境創造に利用できる有用な樹木であると同時に、私たちの食にも重要な役割を果たしているということを学ぶことができました。



3月16日 菌打ちした原木を仮伏せしておくホダ場を整備(灌木の伐採)



3月16日 原木栽培シタケを調理



### 天習+学【環境「緑育」活動】

## 「農業塾」

●第II期講座が進行中です! ※平成25年9月～8月の1年間(12回)の講座です



### ●報告1 楽しく農業を学ぶ交流会

昨年9月からの農業塾第二期は順調に毎月の講義実習を行い、2月の農業塾は交流会を実施しました。楽しく農業を学ぶ交流企画として、農業の〇×クイズを行い、最後まで残った正解者を「農業の天才・秀才」として塾長が認定するというものです。

最初の問題は、「イネは短日植物である」という問題でしたが、皆さん大いに悩んでいただきました。おもしろい問題としては、「ど根性ダイコン」というダイコンの品種があるか?という出題もありました。

全員正解だったものには、「宮沢賢治は、雨ニモマケズのなかで、一日玄米2合と説いている」という問題で、さすがによくご存知だなと思いました。また、「ウドの木」というように、ウドは木である」という問題では、受講生の方から逆質問があったりするなど、楽しくお互いが学びあうことができたことは良かったと思います。

輝かしい農業塾認定の初代農業の天才には、伊賀市のMさんが認定されました。

### ●報告2 研修旅行

平成26年2月1日(土)、「農業における機械化へのあゆみ」というテーマで農業塾の視察研修会を行いました。研修場所はヤンマーミュージアム(滋賀県長浜市)。



農業機械のトップメーカー、ヤンマーの創業100周年を記念して建設されたもので、本社工場の敷地内にありました。このミュージアムは、ヤンマーの創業者・山岡孫吉の功績を称えた山岡孫吉記念室を中心にヤンマーが誇るディーゼルエンジンの仕組み、変遷、進化を体験展示した記念館でした。参加者(19名)は、それぞれの機械の操作や機械を利用したゲームしたりして、時間の許す限り思う存分楽しむことができました。

午後からの研修は、黒壁スクエアの自由散策でした。このエリアは長浜市の旧市街にあり、北国街道沿いに位置しています。1号館の黒壁ガラス館を中心に、歴史的建造物を再生利用した約30ほどの施設があり、情緒あふれる街並みでした。

(藤田・森川)

## 「リユース広場」5回目開催予定!

物を大切にすることや、ごみの減量に少しでも繋がればという思いを込めたこの取り組みは、ボランティアさんの助けや、不用品を提供して頂いた方々のご厚意で、3回目(12月28日)4回目(4月6日)も楽しく開催することができました。また農業塾で採れた大根、芋、人参などの季節の新鮮野菜も、大変な人気を集めています。まだ始めたばかりで試行錯誤の繰り返しですが、次回5回目の開催に向けて皆様のご指導やご協力を心からお待ちしております。



- 開催日 5月18日(日)午前10時～午後1時(無くなり次第終了)
- 開催場所 蚤の市広場 ★雨天時中止(少雨決行)
- 主催/問合せ先 NPO法人 三重スローライフ協会  
090-7862-1509(今田)
- その他 お値打ちの品が小額の募金で手に入ります。  
募金は子ども達の環境教育などに全額使用します。

### エコで人と人を繋ぐ「リユース広場」開催への御協力をお願い!

- ◆ご家庭で眠っている、このような品物はありますか?  
「いつか使おうと思っていた生活用品だけ、これからも使わない」「以前使っていたけれど、もう使わなくなった。」「お返しやプレゼントで頂いたけど溜まっている」「断捨離してすっきりしたいけれど、捨てるにはもったいない」「寄付をしてもいいので誰かに使って戴けたら」～そのようなあなたの大切な品物を生かして使っていただけるような方があったらいいと思いませんか?人と人、心と心を、優しさでエコで繋いで発展させていくお手伝いを、三重スローライフ協会で試験的に行ってみたいと企画いたしました。
- ◆品物の種類など/無償で寄付していただいても良いもの。持ち運びが可能な品物であること。極端に使いづらい品物や高価な品物は、お控えください。
- ◆品物が欲しい方に無償でお渡します。(基本)※少額のエコ募金をお願いしています。(近田・大原)



天然活用

【スローエネルギー】

## 平松産業(株)の蓄電装置

ここ数年は電気を賢く使うという方針で「スマート」という言葉がもてはやされています。スマートハウス、スマートシティとか。しかし弊社では、泥臭く、見栄えにこだわらず、職人的で、大変重い、けど安価で、しかもリユースとしてCO2削減に貢献し、電気を貯めて使う、そんな「蓄電装置」を開発して2年、しかも直流ハウスとして直流電力を充分活用しています。

約8年使った1.5トン電動フォークリフトの鉛バッテリーに、太陽光パネルと深夜電力で蓄電し、交流電力に変換せず、直流電力のままLED照明に使っています。

リチウムイオン電池はすごく可能性のある蓄電池です、しかしまだまだ問題があります。その点、鉛バッテリーは1859年(安政6年)フランスのプランテが鉛蓄電池を発明してからの歴史があり、耐久性安全性が要求される自動車での使用実績があります。リチウムイオン電池がもっと完璧になるまでの間、実績のある鉛蓄電池を活用すれば良いのにと、私は考えます。

(平松産業株式会社 平松俊範)



※平松産業株式会社は、四日市にある企業で、主に産業用の紙袋を製造しており、環境改善商品の提案、開発など、環境活動に取り組んでいます。社長である平松さんは、三重スローライフ協会の副理事長です。

平松産業株式会社 URL: <http://hiramatu-sangyou.com/>

## 報告2013年度後半のスローな談話会

「継続は力なり」を信じて、偶数月は松阪農業公園ベルファームで、奇数月は津の豊しネオポリスで談話会を続けています。

世話役の怪我などもあって皆さんへの呼びかけが十分でず、参加者が少し少ない状況に留まりました。少ないながらも毎回充実したやり取りがあることは救われます。

この半年の談話会では、ベルファーム直売所・農家市場店長の鎌倉さんが前店長の船田さんの取り組みかけた農家さんの組織化をより深め、若手会の組織が立ち上がり、ベルファームのイベントなどで活動が始まりました。より深い地域とのつながりに一歩前進となりました。また、大原が松阪観光協会の理事として松阪の人と少しかわりが深まる中で、松阪ガイドボランティア会長の三好三重子さんのお話はとても興味深いものでした。三重県の企業支援型雇用創造事業を活用して、三好先生の指導を得て作った「鈴のある街・松阪」の観光案内冊子を基にお話いただいたのですが、蒲生氏郷や本居宣長、松阪商人など松阪の歴史と文化のルーツのお話は、一味違う農業公園創りに大きなヒントをいただいたものといえます。

3月の談話会でとても印象に残ったことがあります。ネオポリス開催の皆出席である東さんが「80歳になって、今が一番充実している」と発言されていたことです。東さんの感想(三重スローライフ協会のホームページにアップ)の中では遠慮されたのか、その部分が記載されていないので少し私の方から補足しておきたいと思えます。

「どんなことに注意して生きておられますか?」との問いに対する東さんの答えは次の三点でした。①夢や目標を持って生きる、②感謝して生きる、

※10月は都合で中止となりましたので11月から3月までの話題提供者とテーマ、参加人数は表の通りです。健康、食と農、観光など話題は多義に渡りました。

話題提供者 テーマ

10/18(ベル)	鎌倉崇	農家市場の一年間を振り返って→12月に移動
11/15(ネオ)	大原興太郎	改めて考える健康とつながりへの感謝
12/8(ベル)	鎌倉崇	農家市場の一年間を振り返って
1/24(ネオ)		スローライフ協会10年の小括と今後の方向
2/28(ベル)	三好三重子	松阪観光の魅力とは
3/28(ネオ)	大原興太郎	スローフードとスロースタイル-和食の世界遺産登録にちなんで

(ベルはベルファーム開催、ネオはネオポリス・津の開催)

③社会への恩返し(具体的には地域の活性化への応援)というものでした。自身が楽しむこともいいが、伝承や文化を引き継いでいってほしい、そのための役割や活動をしたい、というもので私自身もめざしていきたいという内容です。

倉田さんの、現役時代は人の評価を気にし、完璧主義をめざしていたが、それを少し相対化して、分相応に生き、お蔭さんでの気持ちで、できるお返しをしていきたい、にも通じるものでした。

鈴木さんと甲田さんの好きなこと、楽しいことを徹底してやっ、技や技能を磨いてきた。それが人より秀でたものになり、また人のつながりを作ってきた、というも納得です。

スローライフ協会も設立後11年目となります。談話会もベルファーム開催と津・ネオポリス開催では少し様子が変わってきました。定年後の世代や自由度のある人がより多く参加しているネオポリスでの開催は新年度から開催の曜日と時間をより参加しやすいものに変えていきたいと思っています。マンネリにならないように、「世代を超えての共有」「前例のない仕組みづくり」「一人ひとりの一歩前進」をめざして…。(大原)